

ソフトボール界が求める指導者のあり方及び注意喚起

はじめに

ソフトボールは楽しむスポーツとしてアメリカで盛んとなり、日本へ伝わり日本全国で町内会での親睦スポーツとして、学校体育スポーツとして、企業スポーツとして、野球（ベースボール）とともに普及発展を遂げてまいりました。そして、世界選手権大会や全日本総合選手権大会など目標とする競技スポーツとして発展し女子種目においては、1996年アトランタ五輪から種目入りを果たし2000年シドニー五輪（銀）、2004年アテネ五輪（銅）、2008年北京五輪（金）と輝かしい成績を残してまいりました。

従来 of 指導者（監督）には、勝つことだけが求められ、選手は勝利を得るために日々厳しい練習に耐え「勝利」という達成感と引き換えに心身共に限界に迫る競技人生を送ることになりました。また、指導者は懸命に指導法や指導論を探求し「勝利」を得るためにその人生を捧げてきました。その結果、関係者に賞賛され・評価され、その指導法や指導論を美学として受け止められてきました。

しかし、時代が流れる中で指導者と選手の関係も大きく変化している事実を把握できないまま、自身のヒューマンスキル（コミュニケーションスキル等）の不足から暴言・暴力・パワーハラスメント・セクシャルハラスメント（わいせつ行為など）・いじめなどいまだにソフトボールの活動現場で多発していることも事実です。結果、心身ともに傷つけられ精神的なストレス障害を発症して好きだったソフトボールを見ることすら出来なくなっている人が出ている事実を反省として自覚してください。

特に小学生、中学生、高校生は心身ともに成長していく過程にあり大切な人間性を形成される時期に信頼する指導者の一言一句が、競技者個人の育成に大きく影響することを再認識してください。今後、同様の犠牲者を出さぬよう指導するためにより良い指導者像を追求していただけますようお願いいたします。

指導者の多くの皆様は、日頃よりお仕事の傍らソフトボールの普及振興および競技力向上に努められ、適切なコミュニケーションをとることで信頼関係の構築を図ることを最優先に指導をされていると推察します。

日本ソフトボール協会指導者委員会では、現状及び将来に繋がる指導者として、成長できる人材育成に尽力する所存です。今一度「第一線で活動されている指導者」の皆さんに自覚していただき自身の指導法を再確認して「ソフトボールを楽しく」を合言葉に監督と選手間に信頼関係を構築していただく取組みの強化を図ってください。

よろしくをお願いいたします。

<JSA 指導指針>

1. 指導者は、絶えず学び続ける姿勢を持つ。
2. コミュニケーションスキルを高める姿勢を持つ。
3. 選手とのコミュニケーションを大切にす。
4. 選手に競技を通じて、人格の形成、生きる力の育成を図る指導に徹する。
5. ソフトボール競技の社会的認知度、評価を高める姿勢を持つ。